

平成22年 山桜会新年会のご報告

新年会実行委員長 長瀬 雄一郎（小103・茨中26・茨高46）

拝啓、初夏の候、山桜会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成22年1月24日(日)にリーガロイヤルホテル3階ロイヤルホールにて山桜会新年会を開催いたしました。

第一部は、恩師池内光宏先生の独唱にはじまり、野田よし子様（高15）の独唱、赤松充子様（茨中2・茨高22）のピアノ演奏、元追手門学院高等学校コーラス部による春のメドレーという温かい音楽会が行われました。第二部は、寺谷一紀様の司会のもと、川原会長の挨拶、大木理事長よりのご祝辞、その後鏡割り、鈴木学院長の発声による乾杯で始まりました。今回は着席形式で行い、ゆったりと



時間をとり、温かい雰囲気の中で恩師や同級生と楽しく語らいながらの食事の中、笑顔があふれておりました。サプライズゲストとして私の父である、ぼんちおさむが出演し歌を披露いたしました。その後は恒例の大抽選会でまた盛り上がり、最後は池内先生と元コーラス部を中心とした、出席者全員で校歌齊唱し、和やかな雰囲気で幕を閉じることができました。



今年の新年会は「オール追手門」をコンセプトとして準備を進めてまいりました。今回新年会を盛大に開催することができましたのも、準備にご尽力をいただきました新年会実行委員の皆様、当日お手伝いいただきました理事・評議員の皆様、出演者の皆様、そしてご出席いただきました皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。最後になりましたが、今後とも山桜会活動に会員の皆様のご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

会員だより

原口 賢治（茨高22期）

追手門学院高等学校茨木学舎に同好会を経てスキー競技部が発足したのは1970年初頭の事である。当時ラグビー部も兼任されていた石川陽運先生と、新任の松田一郎先生が顧問を務めて下さった。ほどなくして現役学生をサポートする目的でOB会が発足、後にチエイザーズ・スキー・クラブと命名された。

当時の卒業生は石川松田両顧問の指導の手助けやサポートする為に、冬と春のスキー競技部の合宿に同行するのが一番の目的であった。合宿の同行以外にも夏休み中の練習にも参加し、クラブ活動の指導にもあたった。また春夏の休日には追手門学院茨木学舎に集合し現役生とテニスを楽しんだり、ソフトボールやサッカーの試合をして大いに盛り上がった。しかし96年に松田先生

が他界されてからは活動が減り、年末に忘年会と称して集まるくらいになってしまった。それでもスキー競技部が発足以来約40年を経てもなお、年に一度でも集合している事実は我々の誇りである。



この度石川陽運先生が古希を迎られ、ひとつの記念にという事で、三月末の土日に約30年ぶりに思い出の地白馬八方尾根でスキー合宿を行った。連絡不足も否めない中、石川先生他6名の参加のもと楽しい時間を過ごす事が出来た。スキー競技部OBでもある梅田「三起」の店長の計らいで、大阪から河豚やら九州黒豚を現地白馬に送り、土曜日の夜はてっちり鍋しゃぶしゃぶ鍋に舌鼓を打ち、日曜日には全員が早起きをして山頂に向かった。二十数年ぶりにスキー板を履いた者もいる中、現役時代とは全く変わってしまった板の操作方法（滑り方）を石川先生が指導して下さった。日頃から体調管理をしじムでのトレーニングも続けられてるとあって、古希を迎えたとは思えない元気ぶりで、先生より若いはずのOB達が先に悲鳴をあげてしまった。

日頃の行いは悪いはずのOB達であるが、春というのに八方尾根のゲレンデは新雪を携え我々を迎えてくれた。曇り空のもと雄大な白馬の光景を全て楽しむという訳には行かなかったが、よき先生よき先輩よき後輩と大自然の中で素晴らしい時間を共有できた歓びは、ここ数年忘れていた事の様に思えた。久しぶりにスキー競技部に席をおいていて良かった、追手門で学べて良かったと、こころより思えた日々であった。

若く元気な先生がいる限り、来年さ来年とこの集いを続けて行きたいと考えております。次回はもっともっと準備して、少しでも多くのチエイザーズ・スキー・クラブのメンバーが集えるように努力したいと思っている次第です。